

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

Miyazaki S, Hagihara A, Kanda R, et al. Applicability of press needles to a double-blind trial. A randomized, double-blind, placebo-controlled trial *Clinical Journal of Pain* 2009; 25(5): 438-44. CENTRAL ID: CN-00706848, PMID: 19454879

1. 目的

腰痛症に対する円皮鍼 (Press needle) の効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

福岡大学スポーツ科学部、福岡、日本

4. 参加者

鍼治療を受けた経験のない大学生 90 名 (2007 年 9 月 18 日～10 月 31 日に参加者を募集)。

5. 介入

Arm 1: 円皮鍼群 (45 名) 左腎兪 (BL23)に円皮鍼 (パイオネックス、0.2×0.6mm、セイリン社製)を貼付。

Arm 2: プラセボ群 (45 名) 左腎兪に鍼先がない以外は円皮鍼と全く同一のものを貼付。

参加者をさらに腰痛患者と健康者に分けた。腰痛患者とは、数日間腰痛がある、介入前の検査で腰痛がある、もしくは 6 か月以上の腰痛歴があるものとした。従って、Arm 1 (42 名) は腰痛患者 9 名、健康者 33 名となり、Arm 2 は、腰痛患者 5 名、健康者 34 名となった。

Arm 1 で 3 名、Arm 2 で 6 名が脱落。

6. 主なアウトカム評価項目

腰痛に関する VAS

7. 主な結果

腰痛に対して Arm 1 は Arm 2 よりも有効であった ($P<0.03$)。また、Arm 1 の腰痛患者は健康者よりも自覚症状の軽減が大きかった ($P<0.001$)。

8. 結論

円皮鍼による治療は腰痛に有効である。

9. 鍼灸学的言及

腎兪への治療は腰痛に有効であるが、この 1 穴ですべて治療できるわけではなく、実際の治療現場では他の経穴と組み合わせる必要があると述べている。

10. 論文中の安全性評価

円皮鍼群で 1 名のみ眠気を訴えた。

11. Abstractor のコメント

非常に良くデザインされた二重盲検試験である。元々の研究目的が二重盲検に対するこの円皮鍼の適否であっただけにマスクの成功についても詳細に記述されている。サンプルサイズが前もって掲載されているのも非常に良い。しかし、2 群をさらに腰痛患者と健康者に分けるなどデザインがやや複雑である。また、アウトカム評価項目が VAS だけであるため、他の項目も入れる方が良いと思われる。さらに、著者も述べているが、介入後 20 分までしかフォローできていないため、その後の効果については全くわからないのが残念である。以上のような点はあるものの、今後の発展が期待できる研究である。

12. Abstractor

若山育郎 2011.9.23